

図書館報

83号

平成21年10月9日発行

目次

- 絵本コーナー新設に寄せて 2
藤友 雄暉 | 絵本の教材化
佐野比呂己 | 初めて出会う本いちばん大切な本
- 特集・本と出会う私の薦める1冊の本 4
前上里 直 | 『こころの危機管理』
高木 康一 | 『運命の人』
大橋 賢一 | 『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』
添田 祥史 | 『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』
『誰も知らない名言集』
一條 和彦 | 『美学辞典』
奥田 友靖 | 『身体運動学：行動選択の規準と運動の経済性』
倉重 哲二 | 『最後の物たちの国で』
二宮英美歌 | 『音楽を「考える」』
学生選書ツアーからお薦めの1冊
- 高校生による図書館体験 11
高校生図書館ボランティア活動（釧路館）
職場体験学習（札幌館）
- 学術リポジトリに関するQ & A 12
- 前川公美夫氏寄贈図書紹介（岩見沢館） 14
- 附属図書館からのお知らせ 16



函館館



釧路館



旭川館

絵本コーナー新設に寄せて

附属図書館では昨年度末に絵本を約2,000冊購入し、札幌館・函館館・旭川館・釧路館に絵本コーナーを設置しました。今年度は岩見沢館でも設置する予定です。学生時代から絵本に親しむことにより、将来教員として小学校等に勤務した際に、児童の視点に立った教材づくりに役立つことを期待しています。講義で絵本を活用されている函館校藤友先生、釧路校佐野先生に絵本について執筆いただきました。

絵本の教材化

ふじ とも ゆう き
藤 友 雄 暉

私は、学部生に、「幼児の言葉」と「幼児文化」の授業で、絵本を教材にしています。

どちらも、幼稚園教諭の免許を出すための科目です。つまり、私は国語教育を専門にしている人間ではなく、幼児教育が専門の人間です。そのつもりで、この文章を読んで欲しいと思います。

斉藤隆介は、1969年8月15日に、福音館書店から初版を出した「三コ」のあと書き、「三コ」に添えて、という文章で、

あれ（八郎）は秋田弁で書かれ、これ（三コ）は、共通語で書かれた。そのため「八郎」は、某氏が十年ほど前に共通語に直して自作と称して見るも無残な姿で教科書にのせる不運にあい、「三コ」は原作のままこんど教科書にのる幸せを得た。

と記しています。

教科書に文学教材として採択する場合、オリジナルで出すか、リライトするかの問題が常につきまといいますが、できれば、オリジナルで出して欲しいものです。

小学校の教科書に出た「八郎」を読んだことがあるのですが、絵本の滝平二郎による画の圧

倒的な迫力は有りませんでした。

授業では、ぜひ原物の絵本の読みきかせをして欲しいものです。

最近は、「アレクサンダとぜんまいねずみ」など、レオ・レオニの作品がよく教科書に採択されているようです。文章が詩的で短く、ちょっとした教訓を含んでいるのが、教科書に好まれる理由かも知れません。

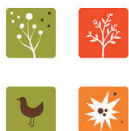
どなたか、1945年（昭和20年）以降の小学校国語教科書データベース一覧として、教科書に採択された絵本の一覧リストを、私の所に届けて頂けないでしょうか。

そのリストの中の主要な作品に、私が考察を加えて、共同研究として後世に残しましょう。

私が授業で採用しているのは、

レオ・レオニ、バージニア・リー・バートン、モーリス・センダック、赤羽末吉、田島征三、斉藤隆介作と滝平二郎画による作品が主です。いずれも、ロングセラーの古典的な作品です。新しいものでは、荒井良二を採りあげています。文学教材は個人的な好みが出てしまうのが難しいなど実感しています。

(函館校幼児教育講座教授)



初めて出会う本 いちばん大切な本

さ の ひろみ
佐野比呂己

私が担当する小学校国語科教育法は学生の Show & Tell から始まる。

約束事は以下の通り。

- ① 国語科の授業の最初 (枕にあたる部分)
- ② 場所は小学校の教室
- ③ 1冊の本を紹介する

対象学年は学生が設定する。Show & Tell であるから、読み聞かせではいけない。小学生におすすめの本を紹介し、その魅力を伝える。本に興味を示さない子どもに読書の入口に立たせることを目的としている。

学生たちはさまざまな本を選び、創意工夫を重ね、Show & Tell にのぞむ。

学生が選ぶ本の中で最も多いのは絵本である。「見せる Show」という点で取り組みやすいことであろうが、学生たちの読書体験の中で絵本は大きな位置を占めていることも少なからずあるようだ。

学生の中には、ぼろぼろになった絵本を持参する者もいる。彼自身が幼少期に何度も読んだ実物だそうだ。絵本そのものから彼の思いがひしひしと伝わってくる。

「絵本は、人間の長い読書生活のなかで、初めて出会う本である。長い読書生活を通して人の読む本のうちで、いちばん大切な本である。子供時代に、その子が、絵本のなかに楽しみをみいだすかどうかで、生涯、本好きになるかどうか決まる。そして、そのときの感銘が大人になって、その人の想像力をことあるごとに刺激するだろう。」

これは、ニュージーランドの図書館員ドロシー・ホワイトのことばである。

そのぼろぼろな絵本は、正に彼にとっての「いちばん大切な本」なのである。

20歳の彼が本好きか否か、言わずもがなである。

実際に学生の Show & Tell から触発されて私自身が実際にその絵本を手にとることもしばしばあった。

“40代半ばのおじさん”にとっても、おもしろいもの、心ゆさぶれるもの、感動するもの、……、ばかりであった。

この歳にして少年のようなピュアな心を持っているとでもいうべきか。いや、すぐれた絵本は大人の鑑賞にも十分たえ得るのであるといった方が正確であろう。

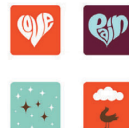
本学の各附属図書館では、絵本が整備され、絵本コーナーが設置されている。読書嫌いだという学生にはぜひとも一度足を運んでもらいたい。お気に入りの一冊をぜひとも見つけてほしい。いや、必ず見つかるはずである。すぐれた絵本はあなたに何かを語りかけてくれるはずであるから。

学力を向上させるポイントは読書活動にあるといわれている。しかし、学力を向上させるという目的だけで読書活動を推進しても効果は期待できない。子どもが読書のおもしろさを実感し、読書習慣を形成することによって、その結果として学力が向上するのである。

本を読む喜びを知らない者が、子どもたちにはたして読書指導ができるだろうか。

いよいよ後期が始まる。私は、後期も小学校国語科教育法を担当する。学生の Show & Tell を通して、どんな素敵なお本との出会いが待っているのか。今から楽しみである。

(釧路校国語科教育講座准教授)



特集 本と出会う

私の薦める1冊の本

前上里 直

吉川武彦『こころの危機管理』(関西看護出版, 1997)

著者との出会いは、私が大学院生の頃に参加していた研究会にコメンテーターとして隔月来ていただいていたことに遡る。研究会ではいじめ、不登校など養護教諭が学校で抱える児童・生徒の健康問題の事例を取り上げ、著者が精神科医の立場からコメントするというものであった。専門知識や経験もなかった私にも事例の解釈がとてもわかりやすく勉強になったことを思い出す。

前置きが長くなったが、本書の紹介に移りたい。

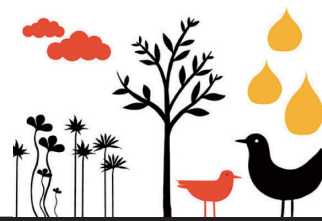
不登校、いじめ、引きこもり等といった子供のこころの問題が聞かれて久しい。これは子供のこころが危機的状況にあると言えよう。本書は子供のこころの危機への対処、解決、予防をするためにはどうしたらよいかということに多くの示唆を与えてくれる一冊である。特に、目では見えない「こころ」をわかりやすく説明し、「こころ」の発達を人間関係との関わりから捉えているところに共感した。例えば、子供と親の信頼関係の構築には「依存 充足」の関係、すなわち子供からの要求を親は受け入れ、要求を満たしてあげることによって子供は親のことを安心して守ってくれる人と認識し、信頼関係が築かれるとしている。そして家庭で築かれた信頼関係を基盤として学校での生徒と教師、生徒同士の人間関係を構築していくと著者は考える。子と親の関係を学校での生徒と教師の関係に置き換え、教師が生徒からの要求に答えてあげることが生徒との信頼関係を築くことにつながる。この安心できる関係を築くことができれば、生徒は生徒同士の関係づくりに失敗することがあったとしても守ってくれる人(学校では教師、家では親)がいるので、再度、生徒同士の人間関

係づくりに挑戦し、成功体験を自信につなげていきながら発達すると捉えている。

本書は「こころ」、「人間関係」、「ストレスイベントから起こるこころの危機」をキーワードに、私達に生徒と教師、子と親といった様々な人間関係の視点からこころの問題とのかかわりについて考えさせてくれる。

著者から聞いた一言が印象に残る。「人間関係が原因で生じたこころの危機は、人間関係を通してしか解決できない」。非常にわかりやすく、手軽に読みやすい一冊なので一読を勧めたい。

(札幌校・学校保健)



高木 康一

山崎豊子『運命の人』(文芸春秋, 2009)

毎日新聞記者西山太吉(本書では弓成亮太)は、外務省女性事務官から、沖縄返還の際に日米でかわされた密約——本来アメリカが支払うべき土地の復元費用を日本が肩代わりする——に関する秘密電文情報を得る。この情報が、国会審議およびメディアを通じて人々の知るところになり、密約の存在を徹底して否定する政府に対する世論の大きな反発を招く。

外務省は、この情報をもたらした女性事務官を突き止める。国家公務員法は、機密情報を漏らした公務員、そして、漏らすようそそのかした者を罰する規定を設けている。そして、事務官と西山兩人とも、国家公務員法違反で逮捕・起訴されることになる。

これは、公務員試験受験などで「憲法」科目を必要とする者にとっては周知の、西山記者事件、外務省機密漏えい事件などの名称で呼ばれる、実際にあった事件である。

本書はこの事件を題材とする、限りなくノン・フィクションに近い小説である。

筆者(高木)の専門とする憲法学においては、ジャーナリストの取材の自由は国民の「知る権利」にも資することになり、憲法21条1項「表現の自由」による保障を受けるとされる。したがって、本件で、記者を逮捕・起訴することは、取材の自由、ひいては国民の「知る権利」を侵害することになりかねない。当時のメディアもこうした論調を強く後押しした。

けれども、事は急変を迎える。既婚の西山が同じく既婚の女性事務官と性行為を行い、女性事務官のいだいた好意を利用し情報を得たことが発覚

する。そして世論は一気に、お互いの不倫関係、そしてそれを利用した西山への反発が支配する。むろん、政府の側もこれを攻撃材料にする。メディアもまた、本件をもっぱらセックススキャンダルとして扱い、当の新聞社自身も「おわび」を紙面で示し、密約報道をやめる。

4巻にわたる本書は、当時の政治・社会・国際状況等を綿密に取材して書かれている。登場人物や政党、新聞名などはすべて架空のものであるが、その実在を想像しながら読むこともさらに興味をそそられる。何より、密約の存在が、単なるセックススキャンダルに推移するそのダイナミズムが本書の醍醐味の一つである。

現在もなお、日本政府の否定するこの密約の存在は、本事件から約30年を経た2000年、アメリカにおいては、公文書で明らかにされていることが判明した——これがこの事件の後日談である。

我々は、「倫理」によって「事実」を葬った。

(函館校・法学)

特集 本と出会う

私の薦める1冊の本

大橋 賢一 ～心に残る特別授業～

加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』(朝日出版社, 2009)

学生諸君が、九〇分の間、退屈することのない講義作りを常々心がけているものの、なかなかうまくいかない—そんな日々が続いている。面白い講義作りをするためには、いくつか方法があるだろうが、やはり魅力的な講義をみて学ぶことが手っ取り早いと思う。しかし大学で他の先生方の講義を拝見する機会が多くはないのが現状である。ただ、大学の先生の授業を本にしたものが少しはあって、ここに取り上げる『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』も、東京大学で日本近代史を研究されている加藤陽子先生の授業記録を本にしたものだ。この授業は、五日間にわたり中高一貫の某私立の学校で行われたもので、参加した生徒は歴史研究部の部員二十名程度である。五日間の講義の内容は、総論にあたる「日本近現代史を考える」に始まり、「日清戦争」「日露戦争」「第一次世界大戦」「満州事変と日中戦争」「太平洋戦争」となっている。

五日間の授業を聞いた後の生徒のことが印象的だ。

—歴史をこんなふう考えたことはなかった。いつもとは違う頭の使い方をした感じがしてクタクタになったけれど、かなり有意義だったと思います。

生徒がこのような感想を述べているように、授業のレベルは相当高い。生徒がときどき先生の質問に答えることもあるが、基本的には先生のお話を中心である。ただ、そのお話が大変興味深く、聞いている人をあきさせない。話の筋立て、資料の活用の仕方など、いずれも鮮やかだからだ。また当然のことだが、加藤先生は近現代史について

かなりお詳しい。恐らく生徒たちも、加藤先生の知識の量に圧倒されたからであろう。

様々なお話が、加藤先生の知識の泉から次々と湧き出てくるのは、当然ながらその読書量に裏打ちされているからにはほかならない。加えてその知識の源を、加藤先生は惜しげもなく授業中で紹介されている。戦争論についてお話をされているときには「長谷部恭男先生の『憲法とは何か』をお読みください」といい、太平洋戦争時、日本の暗号解読レベルが高かったことを説明する際には「小谷賢先生の『日本軍のインテリジェンス』にくわしく書かれていますので、ぜひ読んでみてください。この本はすごく面白い」といい、満州からの引き揚げについては、安部公房をとりあげ「引揚げ体験を元にした小説『けものたちは故郷をめざす』は傑作です」といい、軍隊についての実録としては「藤原(彰)先生の書いた『餓死した英霊たち』はぜひとも読んでいただきたい」という。この調子で、この授業が作られる際に利用された本が多々紹介されている。ここに紹介されている本は、その多くが文庫や新書の類いで、簡単に手に入れられそうなものばかりだ。

考えを深め、深い知識に裏づけられた面白い講義を作るためには、やはり多読が必要不可欠だ。今さらながら、好い授業作りには日々の読書がかかせないということを、改めて伝えてくれた一冊であった。

(旭川校・漢文学)



添田 祥史

リリー・フランキー著

『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』(扶桑社, 2009)

『誰も知らない名言集』 幻冬舎文庫

「課外授業ようこそ先輩」というテレビ番組をご存じだろうか。さまざまなジャンルで活躍する著名人が母校の子どもたちを相手に授業をする。その授業がどれも魅力的で抜群におもしろい。そのなかでもリリーさんの回はいろいろな意味で別格だった。

彼のお題は「ラブレターを書く」。相手はシャイで多感な小学校高学年。教室はざわめく。彼は言う。ラブレターとは大事なひとへ思いを伝える手紙だ。普段口には出せないけど、感謝や尊敬の気持ちを伝えてみよう。自分にとって大事なひとは誰? どうして大事なの?

その作業は、自分と深く向きあい、人生を見つめ直すことを求める。ラブレターの相手はなかなか決まらない。いろんな顔が浮かんでくるからだ。そして、気づく。自分はこんなにもたくさんのひとに支えられてきたという事実に。悩み悩みしながら、子どもたちはそれぞれの思いを自分のことばで表現していった。

私が今回お薦めする『東京タワー』は、そんなリリーさんこと中川雅也が母へ送ったラブレターであり、自分史だ。まだ読んでないひとは、とにかく読んでほしい。最近、父に、兄弟に、そして、母に、感謝の気持ちを伝える私がいる。そのきっかけをくれた一冊だ。

さて、2冊目もリリーさんの本だ。実はこの本、こんなところで紹介するような本ではない。「低俗」で「下品」な内容満載だからだ。この本には、リリーさんが毎日の暮らしのなかで採集した「名言」とそれにまつわるエピソードが並べられてい

る。その一部を少しでも紹介しようとチャレンジしてみたけれど、できない。そんな一冊だ。だけど、とにかく笑える。堪えても堪えても、ついつい吹き出してしまうこと請け合いの一冊だ。

今回、私はどうしても『東京タワー』とこの本をセットで紹介したかった。『東京タワー』に流れているのは、ずるくて、だらしなくて、したたかで、それでいて、ちょっぴり温かい、そんな人間観だ。ひとの弱さとそれが織りなす優しさを痛々しいほど丁寧に自分語りで綴っている。『誰も知らない名言集』はというと、文体も内容も全く違う人間観察記録集。まず、この二面性がいい。そして、この二面性が表裏一体というよりも、実は同じところからきている。それが見え隠れするところに私はとても惹かれる。

どちらかでも良い。ぜひ、併せて読んでほしい。なんだかんだいっても、やっぱり人間っていいよなあと改めて思える、そんな時間が待っている。

(釧路校・地域教育論)

特集 本と出会う

私の薦める1冊の本

一條 和彦

佐々木健一『美学辞典』(東京大学出版会, 1995)

「表現」、「想像力」など美や芸術に関する諸概念を解説する辞典。引く辞典ではなく読む辞典である。比喩的に言えば、美学的な事象に関してなされた犯罪の種類と犯行現場が明らかにされ、その犯人が名指しされている(もっともそれは、犯罪ではなく善行かもしれないが)。我々がよって立つのは全て偏見(よく言えば、先入見)であるが、玉葱の皮のようにその偏見を一枚一枚剥いていくと、そこには何が残るのか? もし何かが残るとしたらそれが「あなた」ということになるのだろう。自己解体のための鋭利なメスのような辞典、是非手に取ってほしい。

(岩見沢校・芸術理論)

奥田 知靖

W. A. スパロー『身体運動学：行動選択の規準と運動の経済性』(大修館書店, 2006)

本書は人間の運動に関する学問を一通り履修した学生にとって、興味深い内容になると思います。本書は「運動の経済性」を主なテーマとしています。これは、運動が熟練されるにつれて、無駄な動きがなくなり複雑な動きでもスムーズに行えるようになることです。運動の経済性には様々な要因が絡んでいるため、一つの学問領域のみで理解することは困難です。本書ではバイオメカニクス・運動生理学・心理学等の複数の学問領域からアプローチしているため、運動の経済性についての理解を総合的に深めることができると思います。

(岩見沢校・体育実技)

倉重 哲二

ポール・オースター『最後の物たちの国で』(白水社, 1994)

兄を探すためにあらゆる物が失われていく絶望的な国に訪れた女性(アンナ)が故郷の友人に向けて手記を語るという形式で物語は綴られていく。切なくなるほど救いのない物語なのだけど、読後はむしろ心地よくもある。オースターの言葉は、非常に映像的で物語りに読者をぐいぐい引き込んでいく。映画は好きだけど小説はあまり読まない学生にもお勧め。

絶望がづらいのは、例えば、1パーセントの希望が残っているからで、本当に何の希望もない完璧な絶望の中におかれるとむしろ人はその諦念の中でいっそ清々と生きていけるのではないかと思う。

(岩見沢校・デザイン)

二宮 英美歌

茂木健一郎・江村哲二『音楽を「考える」』(ちくま書房, 2007)

いつの時代でも、音楽を愛する者達の、作曲家に対する純粋な興味や憧れは尽きない。今でもなお、何百年も前に生きていたバッハやモーツァルトの知られざる作品の発掘や、ベートーベンの不滅の恋人が誰であったかなどは、世界中の熱い注目を浴び続けている。「あの美しく魂を揺さぶる音楽は、どこからやってくるのだろうか?」「作曲家とはいったい何者なのか?」皆さん、知りたくありませんか?最近話題のクオリア脳科学者・茂木健一郎が、今は亡き作曲家・江村哲二と対談した『音楽を考える』。新書というお手軽さもあってオススメの一冊です。

(岩見沢校・鍵盤楽器)



第2回選書ツアーからお薦めの1冊

平成20年11月21日（金）紀伊國屋書店札幌本店にて
読みたい本、図書館に置いてほしい本を直接書店で選ぶ学生選書ツアーを実施しました。
参加してくれた6名の学生さんに選んだ本を紹介してもらいました。

日本語に主語はいらない：百年の誤謬を正す
金谷武洋著（講談社，2002）

「は」と「が」の違い、わかりますか……？ おそらく、ちゃんと説明できる人はほとんどいないでしょう。無理やり説明したとしても、自分自身ホントに納得できているか、怪しいものです。それもそのはず、学校で習う国語文法が根本的に間違っているのだから、当然です。さて、「このままじゃダメだ！」と思った人にはこの本。「主語病」を鮮やかに斬って捨てる論調は、まさに痛快！ 時代遅れの学校文法を完膚なきまでにやっつけています。教師志望の人は教壇に立つ前にぜひ読んでください。目から鱗の落ちる1冊です。

抗いの条件：社会運動の文化的アプローチ
西城戸誠著（人文書院，2000）

この冬「年越し派遣村」のニュースが連日流れていましたが、今、さまざまな問題分野で市民の果たす役割が再考されていると感じます。これまでの市民運動の問題点はどこにあるか、これから大切にしていけるべきものは何か、非常にホットな課題であるかと思います。社会運動の概説的な歴史の説明に始まり、具体的な事象をいくつも取り上げて社会運動の分析を行っているこの本はとても読みやすく、社会運動をどう見ているかのきっかけを与えてくれる気がします。

障害のある学生を支える：教員の体験談を通じて教育機関の役割を探る

ボニー・M・ホッジ，ジェニー・プレストン 編
（文理閣，2006）

本書は、アメリカにおける高等教育機関に進学した障害のある学生を支えるために、大学教員や周りの関係諸機関がどのようなサポートをしているかという詳細な体験談が事例別に綴られています。そのあまりにも緻密な指導と熱意と努力、そして揺ぎ無い教育に対する信念に胸を打たれました。「教育上の配慮とは、誰もが等しく学ぶ機会をもつことができる教育環境の整備を目的とする」。本書で一番伝えたいことは、恐らくこの一言に集約されています。

特集 本と出会う

私の薦める1冊の本



異能の画家 伊藤若冲 (新潮社, 2008)

伊藤若冲 (1716~1800) は、近年飛躍的に人気と知名度を上げている江戸時代の京の絵師である。作品は山水画は少なく、濃彩の花鳥画、とくに鶏の絵を得意とした。代表作「動植綵絵」は鶏、鳳凰、草花、魚介類などがさまざまな色彩のアラベスクを織り成す、華麗な作品。現在は宮内庁が管理している。本書では青物商から画家へと転身した若冲の生い立ちや、作品に隠された秘話を紹介している。鶏に代表される花鳥画のみならず、若冲の作品はとにかく斬新で画風は多岐にわたる。柵目描き、筋目描き、石摺りふう、木版画など、それらが事細かに一般向けにわかりやすく解説されている。



イラストレート恋愛心理学： 出会いから親密な関係へ 齋藤勇編 (誠信書房, 2006)

「どんな人がモテるんだろう」「外見なんて関係ないって人もいるけどやっぱり外見だよなあ」「性格重視っていうけどポイントになる性格ってどこ?」きっと恋愛に関心がある人は大勢いると思います。しかし、実際にモテるには何が大切かということを知っている人は少ないのではないのでしょうか。この本では、恋愛に関し、様々な角度から実験を行い、結果を出しています。実験は実験のページでまとめられ、別のページに簡単に結果をまとめているので、実験のページをとばして読むこともできます。また、社会心理学専攻の人は先行研究を調べるためにも使えると思います。



齋藤孝のざっくり!世界史： 歴史を突き動かす「5つのパワー」とは 齋藤孝著 (祥伝社, 2008)

歴史が苦手な人、興味がないという人にも読んで欲しい一冊でした。世界史を学ぶということは、人間の本質を学ぶことであるし、現代社会でおこっているできごと(国際的な政治から、小学校のクラスのグループ抗争まで、あらゆること)を理解する下地をつくるということなんだと感じさせられます。歴史を動かすのは「人」です。その「人」を動かす要因にスポットライトをあて、それを中心に、タイトル通り「ざっくり」と歴史を解釈していきます。その要因とは、大きく5つ。「モダニズム」「帝国主義」「欲望」「モンスター」「宗教」。時系列でこまかく解説してくれる受験用世界史参考用とは違い、歴史の「見方」を私たちに提示してくれ、たくさんの切り口を与えてくれるオトナの歴史本だと思います。

高校生図書館ボランティア活動 (釧路館)

平成21年7月3日(金)、晴天に恵まれた初夏の午後、武修館高等学校(釧路市)3年生6名の皆さんが、釧路館でボランティア活動を行いました。

本学で実施された高校生向け事業「エデュケーションカフェ」をきっかけに北海道教育大学に関心を持ち、高校での総合学習「校外実践ボランティア」を本学図書館で行いたいと希望したそうです。そこで、担任で本学釧路校卒業生でもある竹ヶ原康弘先生を通して相談が寄せられ、実施することになりました。

当日は約2時間の予定で、館員より図書館の概要や図書の並び方について説明を受けた後、書架に並んだ図書の乱れを直す仕事に取り組んでいただきました。

限られた時間の中、皆さん意欲的に取り組み、目立たない仕事においてもそれぞれ意味があるということを学んで、帰路につきました。これからもますます図書館に親しんでくださることを期待しつつ、あらためて御礼申し上げます。



終わっての一言

松浦さん「普段行かない所で作業ができ、内容も性格に合っていて楽しかったです。」

武石さん「高校では図書委員をやっています。一見簡単そうですが、記号を追うのに気を遣いました。」

吉田さん「家の本棚を整理するときと違って、意味があって並べられていることに感心しました。」

上山さん「この図書館は書架や図書の並び方がわかりやすく、工夫されていると思いました。」

山口さん「自分でやってみて、本を借りる人が利用しやすいように揃えることの意味を感じました。」

大野さん「本を順番に追っていくと、様々な本があることを改めて実感しました。中には読んでみたいものもありました。」

職場体験学習 (札幌館)

附属図書館札幌館では、平成21年8月26日(水)、札幌旭丘高校1年生10名(男子2名、女子8名)を受け入れて「職場体験学習」を実施しました。

これは、札幌市教育委員会が平成15年度から市立高等学校共通の取り組みとして導入している進路探求学習の一つで、自分の興味・関心のある分野で働いている社会人と接して体験的な学習(学び・発見)をするという目的でおこなわれています。



の自己紹介にはじまり、オリエンテーション終了

当日、開始時間20分前には全員が揃い、学習意欲満々といった雰囲気でした。職員・高校生互いの

後、事前に用意したカリキュラムに従い、A班・B班それぞれ5名ずつに分かれ、サービス部門(貸出・返却、ILL、

情報検索等)と管理部門(受入、分類、目録、装備等)の仕事を体験してもらいました。はじめは緊張した様子で取り組んでいましたが、次第に慣れてきて笑顔も見られるようになりました。体験学習修了後の質疑応答は、学習内容・図書館の仕事などについて、高校生からの質問に答えたり、職員からは学習内容の感想を尋ねたり、和やかな雰囲気で行われました。高校生の皆さん、今回の職場体験学習により、これまで以上に図書館の仕事に興味を抱いてくれたようです。



学術リポジトリに関するQ & A

5月7日～29日にかけて本学の全教員を対象に「リポジトリに関するアンケート」を実施しました。ご回答いただいた教員の皆様に感謝申し上げます。なお、教育研究成果は随時受け付けておりますので、ご提供方よろしくお願ひします。

アンケート回答者146名（全教員の約26%）のうち、リポジトリに「登録したい」と回答したのは69名、「登録したくない」と回答したのは77名でした。「登録したくない」理由は多い順に次のとおりでした。

- 登録作業が面倒だと思う
- 学術雑誌に発表すれば十分だから
- 何を登録すればよいかわからない
- 著作権上の問題が心配
- リポジトリに関する情報が不足
- 悪用されないか心配

以下、「登録したくない」理由や懸念を少しでも解消していただけるようQ&A形式でリポジトリについて説明します。

Q. 登録作業が面倒だし、忙しいので登録する時間もないのですが……

A. 登録作業は学術情報室で行います。教育研究成果物の電子ファイル（PDF、Word等）または印刷体（紙媒体）に登録許諾書を添えて送付してください。登録・公開が可能かどうか、こちらで著作権を確認します。なお、共著者がいる場合は、事前に口頭でも結構ですので許諾を取ってください。

以下のページも参照してください。
<http://s-opac.sap.hokkyodai.ac.jp/library/repository/toroku.html>

Q. 学術雑誌に発表すれば十分なのでリポジトリに登録する意義を感じません。

A. 学術雑誌や電子ジャーナルは有償のものが多く、限られた人が限られた場所でしか利用で

きません。しかし学術リポジトリに登録するとインターネットで世界中に発信できます。可視性が高まることで、被引用率が向上することも期待できます。

Q. 学会・個人のウェブサイトやCiNiiで論文を公開しているのに、さらにリポジトリで公開する必要はないと思うのですが？

A. 様々な論文検索システムやサイトで公開・提供されることに異存はありません。学術リポジトリに登録することで、本学の学術情報の一元化というメリットもありますし、提供された教育研究成果物にはメタデータ（目録情報）を付与して検索エンジンからも検索されやすいように登録しますので、可視性が向上すると思います。

また登録した教育研究成果物は学術情報室で責任を持って恒久的に保存します。

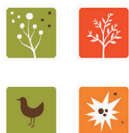
Q. 「研究者総覧」に研究成果を掲載しているので、一定の情報発信はなされていると思いますが？

A. 学術リポジトリには論文本文等の研究成果そのものを登録するので、「研究者総覧」とは目的やデータ内容が違います。

Q. 何を登録すればよいかわかりません。

A. 本学教員・大学院生の教育研究成果が対象です。具体的には、以下のようなものが考えられます。

国内外の学術雑誌掲載論文、紀要等の学内刊行物掲載論文、研究成果報告書、教材・講義資料、公開講座資料、教育実践資料、学術研究会議関連資料、作品（絵画・書・音楽等）等。それ以外でも、登録を希望する教育研究成果物があればお問い合わせください。



Q. 既に雑誌に発表済みの論文でも登録できるのですか？

A. 登録できます。登録するための著作権の確認は学術情報室で行います。なお、海外の約90%の出版社は、著者版原稿の公開を認めています。公開可能かどうかは以下のサイトでも確認できます。

〈海外〉 SHERPA/RoMEO

<http://www.sherpa.ac.uk/romeo/>

〈国内〉 SCPJ

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/>

Q. 著作権の問題が心配です。

A. 教員自身が著作権者の場合は、学術リポジトリに提供する際に登録許諾書を提出していただければ何も問題ありません。

学会・出版社等に著作権がある場合は、それぞれの許諾が必要となります。学術情報室でそれらの著作権の確認を行いますが、許諾を得られない場合は登録できない可能性もあります。

Q. 図書の掲載は著作権上の問題は発生しないでしょうか。

A. 図書についても登録対象として考えられますが、出版社の許諾を得ることが難しいと思われます。ですが、他大学で図書の一部を登録している事例もあります。

Q. 公開によって悪用されないか心配です。

A. 公開するPDFファイルにはセキュリティを設定し編集等ができないようにしています。これによってコピー&ペーストを防ぐことができます。

また、Word等のファイルが提供された場合は、学術情報室でPDF化します。

Q. 臨床事例をあげているため調査対象者のプライバシー保護等の観点から一般公開をためらいます。

A. 個人情報部分を伏せる、あるいは削除して登録することも可能かと思えます。

Q. リポジトリ自体にあまりメリットを感じません。

A. 学術リポジトリに登録することによって教育研究成果を長期的に保存することが可能となり、登録された論文等は、世界中から自由に本文へアクセスすることが可能となり、より多くの人に教育研究成果を知ってもらうことができます。また、単に研究成果の発信という研究者個人のメリットというより、大学として教育・研究活動の成果を発信することで社会に対する説明責任をはたすという重要な役割があります。

HUE Repository 北海道教育大学学術リポジトリ

教員の皆様の、これまでの、これからの教育研究成果を学術リポジトリに搭載し、インターネットで世界中に発信しませんか。

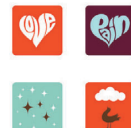
<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/>
学術リポジトリの概要、教育研究成果の提供方法等については上記をご覧ください。

問合せ・データ提供先

学術情報室 リポジトリ担当

Email: t-unyo@sap.hokkyodai.ac.jp

Tel: (内線286,287、札幌キャンパス以外からは51-286, 51-287)



前川公美夫氏寄贈図書紹介 (岩見沢館)

2008年度末、本校非常勤講師として日頃より学生指導にご尽力いただいております前川先生より図書622冊、雑誌17誌を寄贈していただきました。

寄贈して頂いた図書を整理する中で、購入を検討するも絶版になり入手できなかった図書や、一般には販売されていない郷土の芸術・音楽系資料が多数あることがわかり、先生のこれまでのご活躍無くしては手に入らない貴重な資料を、惜しみなく寄贈していただけたことに改めて感激いたしました。

そこで、このような貴重な資料をそのまま書棚に並べてはもったいないとの意見があり、多くの学生の目に触れ、手に取りやすいようにと4月上旬から約2週間特別展示を行いました。

特別展示中は、多くの学生が書棚の前で足を止め隅々まで目を走らせると、気になる本を手に取り、真剣な眼差しで読み進めている姿が見受けられました。

中には、突如書棚の中を埋め尽くした図書の多さに感嘆の声を上げる学生もおりました。

特別展示が終了すると同時に、貸出を希望していた図書を数冊抜き取り、嬉しそうにカウンターへ手続きに来る学生がいたことが大変印象に残っております。

大学再編による学生のニーズと所蔵資料とのずれ、予算縮小による購入図書の減少で蔵書を増やすことが出来ないことに悩んでいた私たち図書館職員にとっては、大変ありがたい寄贈図書となりました。

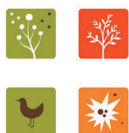
この場をお借りして、改めて前川先生にお礼を述べさせていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。



前川公美夫 (マエカワ・クミオ) 氏略歴

1948 (昭和23) 年北海道登別市生まれ、室蘭市育ち。1971年、北海道大学工学部建築工学科を卒業して北海道新聞社に入社。事業局、秘書室、士別支局長、テレビ北海道出向 (報道制作局長代理兼報道部長)、編集局文化部長、編集委員、道新ぶんぶんクラブ事務局長を経て2008 (平成20) 年に定年を迎え、引き続き「シニア職」で出版局に勤務。著書に『有島武郎の札幌の家』(星座の会)、『北海道洋楽の歩み』(北海道新聞社)、『北海道音楽史』(大空社、亜璃西社)、『響け「時計台の鐘」』(亜璃西社)、『頗る非常! 怪人活弁士・駒田好洋の巡業奇聞』(新潮社)がある。



寄贈いただいた図書の一部を紹介します。

書名・誌名	責任表示	出版者	出版日付	所在	請求記号
HBC ジュニアオーケストラ 40年のあゆみ：ひたむきにひ たすらにオーケストラの青春 1964～2004	HBC ジュニア オーケストラ40 年誌編纂委員会 編纂	HBC ジュニア オーケストラ事 務局	2006. 1	岩・図：一般 図書（開架）	764.3/HB
オルガン設置への道：札幌コ ンサートホール	Kitara Organ Club 編	Kitara Organ Club	2004. 7	岩・図：一般 図書（開架）	763.35/KI
防長吹奏楽史：ペリー艦隊来 航から第十八回国民体育大会 まで	梶田清七著	梶田清七	1989. 1	岩・図：一般 図書（開架）	764.6/KA
どてら姿のマエストロ：わが 師井口基成	田中正史著	ムジカノーヴァ	1997. 8	岩・図：一般 図書（開架）	763.2/IG
「マエストロ、時間です」： サントリーホールステージマ ネージャー物語	宮崎隆男著	ヤマハミュ ジック	2001.10	岩・図：一般 図書（開架）	760.69/MI
ミュージズは大阪弁でやって来 た	奥村武司著	東方出版	1991. 5	岩・図：一般 図書（開架）	764.3/OK
イサム・ノグチ展：モエレ沼 公園グランド・オープン記念 第3版	札幌芸術の森美 術館編	札幌市芸術文化 財団／札幌テレ ビ放送	2005. 9	岩・図：一般 図書（開架）	706.9/SA
北海道立近代美術館コレク ション100選	北海道立近代美 術館編集	北海道立近代美 術館	1997. 7	岩・図：一般 図書（開架）	706.9/HO
北大路魯山人展：世田谷美術 館所蔵一塩田コレクション	北海道立近代美 術館編	北海道立近代美 術館	[2000]	岩・図：一般 図書（開架）	751.1/KI
全道展35周年記念：1980		全道美術協会	1974. 6 -	岩・図：一般 図書（開架）	702.191/ZE/35
オケ老人！	荒木原著	小学館	2008.10	岩・図：一般 図書（開架）	764.3/AR
札幌だより		札幌：札幌友の 会	1961- 1966	岩・図・雑誌	
札幌交響楽団定期演奏会：文 化庁助成公演		札幌交響楽団	1967- 2008	岩・図・雑誌	
音楽雑誌 = The musical magazine		東京：出版科学 総合研究所	1890- 1898	岩・図・雑誌	
					他図書全622冊 雑誌全 17誌

その他札幌交響楽団関係、大学交響楽団史、道内吹奏楽連盟史、道内美術館刊行物等、多数の種類が揃っております。



LIBRARY NEWS

附属図書館からのお知らせ

全館共通 <http://s-opac.sap.hokkyodai.ac.jp/library/>

第2回附属図書館懸賞論文募集

「本との出会いを大切に、すばらしい本との出会いを皆に伝えてほしい」という趣旨のもと、第2回懸賞論文を募集します。優秀者には賞状および賞品を贈呈いたします。

【課題】 図書館で所蔵している図書を読み、小論文または感想文を作成してください。(図書のジャンルは問いません。)

応募方法の詳細はポスター・ちらし・ホームページでご確認ください。

マイライブラリの機能向上

以下の機能が加わり、マイライブラリがより便利になりました。

- 貸出予約
- 貸出期間の延長
- 新着資料の通知サービス

上記の他にも貸出状況の確認、他館への文献複写・図書借用の申込等がオンラインで可能です。ぜひご利用ください。(マイライブラリを利用するには申請が必要です。各館カウンターへお申し込みください。)

OPACの検索項目の追加について

現在、OPAC(オンライン蔵書目録検索)にオープンアクセス誌を含む13,000タイトル以上の電子ジャーナル情報を登録しています。また雑誌情報から各ジャーナルサイトへ導くリンクも付与しています。さらにアクセスを便利にすべく電子ジャーナルのみに絞って検索できるよう「雑誌の種類」を検索項目に追加しました。

EBSCO社電子ジャーナルのトライアル

EBSCOhost Academic Search Eliteのトライアルを10月から12月の3ヶ月間実施します。全文を収録している雑誌数は2,000誌以上、人文社会・自然科学・医療・デザイン等幅広い分野をカバーする電子ジャーナルです。ぜひこの機会にお試しください。

道内教育関係者に対する図書の郵送貸出の開始

道内教育関係者に対して本学附属図書館の蔵書を郵送で貸し出すサービスを1月から開始します。

札幌館 <http://s-opac.sap.hokkyodai.ac.jp/library/top.html>

- 10月24日(土)・25日(日)札幌館において、重複等の理由で不用決定した図書を安価で販売し有効利用を図るリユースセールをおこないます。たくさんの方々のご来場をお待ちしています。

〒002-8503 札幌市北区あいの里5条3丁目1-6
TEL 011-778-0288

函館館 <http://www.h-lib.hak.hokkyodai.ac.jp/>

- レポート・論文を作成するために必要な資料が見つからないときには、カウンターへご相談ください。各種データベースによる文献探索、他大学図書館から書籍や論文コピーを取り寄せる方法などについて、職員が説明いたします。

〒040-8567 函館市八幡町1-2
TEL 0138-44-4231

旭川館 <http://www.asa.hokkyodai.ac.jp/office/tosho/>

- 絵本コーナーを拡張した書架に、新たに500冊ほど増えましたので、是非読んでみてください。また、この機会に新着図書の書架にある新しい本もご覧ください。

〒070-8621 旭川市北門町9丁目
TEL 0166-59-1235

釧路館 <http://www.kus.hokkyodai.ac.jp/users/library/>

- レポート・論文を作成するには、文献収集が必要です。効率よく収集するためのガイダンスを実施していますので個人やゼミ単位でのお申込みをお待ちしています。

〒085-8580 釧路市城山1丁目15-55
TEL 0154-44-3243

岩見沢館 <http://tosho.iwa.hokkyodai.ac.jp/>

- 論文作成のためのOPAC及びCiNiiの講習会の希望を受け付けています。いつでもカウンターへお問い合わせください。

〒068-8642 岩見沢市緑が丘2丁目34-1
TEL 0126-32-0240